
ひとりぼっちになった日

ゆき乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとりぼっちになった日

【Nコード】

N2779B

【作者名】

ゆき乃

【あらすじ】

愛し合ってたはずの二人なのに。別れはいつか来る…

(前書き)

女の子の目線から書いた失恋モノです。途中からがらっと変わりますが…読んでみてください。

『三咲、好きだよ』

悠哉の聞き慣れた心地良い声。

『うん。あたしも大好き』

そして二人はキスをする。

あたしと悠哉は付き合って一年と半年になった。

『三咲、あれ。』

『あー…はいはい。』

あたし達の食事中の会話。まるで熟年夫婦みたい。
でも、そう呼ばれるのも嫌じゃない。

悠哉とあたしは、気持ち繋ぎ合っている証拠だもん。
あたし達はいつでも一緒。
同じ気持ち。

『いいなあー三咲は。』

『ん？何が？？』

『とぼけんじやないわよー悠哉君だよ。愛し合える彼氏がいて。』

『そんな事ないよおー。だってアイツいつも人任せだし、意地っ張

りだし…』

『あーはいはい。そんな所も好き!!とかゆー奴でしょ。』

『もーッ!!そーやってえ…』

よく言われる事。

あたし達はみんなの憧れみたい。

そんな中のある日。

『三咲く帰ろう』

『うんッ』

二人は手を繋いで歩き出した。

悠哉と手を繋ぐと、何故か安心できる。不思議だ。

悠哉は、公園のベンチに座ろうと言ってそのまま向かった。
ベンチに座ると、悠哉が最初に口を開いた。

『ねえ』

『ん?何??:悠哉』

『いや、やっぱいいや。後で』

『何よぉ??:…』

気になったけど、深くは聞かなかった。

深刻な事じゃないよね？

しばらくすると、悠哉と三咲はまた手を繋いで帰った。

三咲は部屋に入るとさっきの事を考えた。

…何を言おうとしてたんだろう？…

♪

三咲の携帯電話が鳴った。

受信…悠哉

さっきの話なんだけど…

送信…悠哉

うん。何なに？？

受信…悠哉

俺達、別れよう。

…え？

どうして？？ 本当は？？

冗談じゃないよね。悠哉はそんな冗談言う人じゃない…

それにしても急すぎるよ…悠哉

あたし別れたくない…

送信…悠哉

どうして？ 別れたくないよお…。

受信…悠哉

ごめん。好きな女が出来た。

…なんでよ

愛し合ってたって思ってたのはあたしだけだったの？

ずっと同じ気持ちでいられると思ってたのはあたしだけだったの？
でも、これ以上嫌われたくないよ…。

送信…悠哉

うん。わかった。

…こうしてあたし達は終わってしまった。

突然だったからか、涙が出ない。

声をあげて泣きたいのに泣けない。

別れるならどうして手を繋いだの？

どうして一緒に帰ろうって言ったの？

もう、あたしじゃ無理なんだ。

一緒の気持ちとか、ずっと一緒にいられるとか思ってたのは、あたしの独りよがりだったんだね。

でも大好きだよ。

忘れられるハズがない。

大好きなんだもん。

いつも一緒だったのに。

あたしの隣にはもうあなたはいないんだね。

何処に行くにも何をするにも独りぼっち。

こんなに大切な存在だった悠哉。

君に出会って、愛する事を知ったよ。

いままでありがとう。

あたしは、悠哉が戻ってくるまで待ってるよ？

絶対に、悠哉以上に愛せる人はいないの。

だから、独りで待ってるよ。

いつか戻って来る事を信じて。

（後書き）

この作品を読んでいただき、ありがとうございます。

私が書こうとしてるものは、基本失恋モノが多いのですが…
情移入出来たでしょうか？

感

よかったら、びしばし感想をお願いしますッ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2779b/>

ひとりぼっちになった日

2011年1月19日06時04分発行